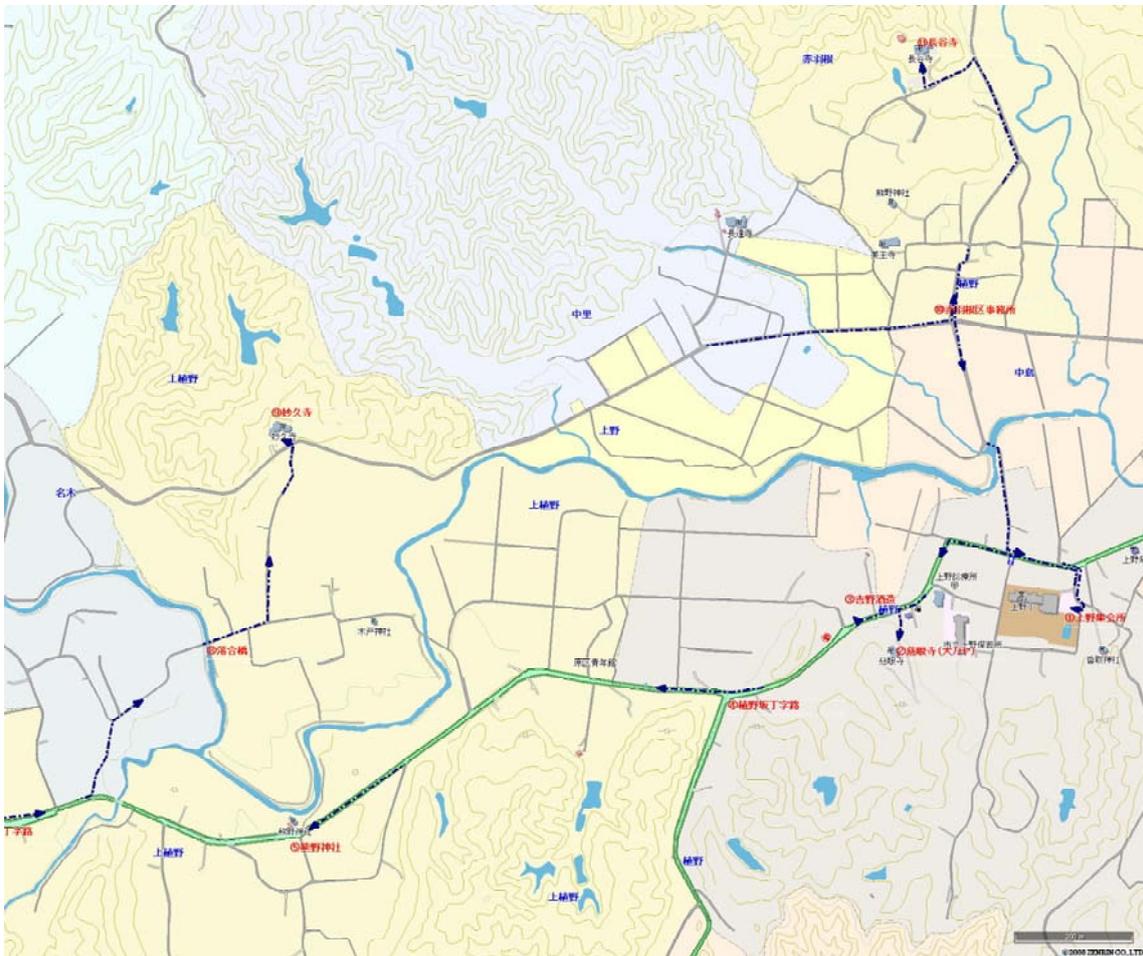


上野・名木コース

上野・名木地区は、かつて房州から上総を結ぶ幹線道があった。安房の内浦村から市ヶ坂を上り、台宿村に行く途中には国境に関所があり、台宿は宿場として栄えていた。また、交通の要所であったため、戦がたびたび行われたと思われる里名が残されている。鎌倉幕府の直轄地や江戸時代・旗本知行地、代官支配地であったときもあり、鎌倉の腰越台、江戸の大森、赤羽根、上野、荒川、牛込、神楽坂、川崎等の地名がある。文化的にも県指定や市指定の文化財、県や市指定の天然記念物、国登録有形文化財などがある。豊かな田園風景の中、往時を偲び散策してみるのはいかがでしょう。

経路図 その1



熊野神社を過ぎ、直進。西原丁字路を鴨川市方面に進み、寂光寺へ向かう経路図は「その2」をご覧ください。

経路図 その2



コースの経路(9.7km)

上野集会所	慈眼寺	吉野酒造(建物群)	熊野神社	寂光寺(大椎)	妙久寺	長谷寺	上野集会所
5	1	1	2	2	1	1	
5	5	1	1	6	9	2	
0	0	0	5	3	0	6	
m	m	m	m	m	m	m	

【経路説明】

①上野集会所に車を置き、主要地方道天津小湊・夷隅線に出て、左折し500mに②慈眼寺の入口がある。

※この慈眼寺には市指定天然記念物の大カヤがある。樹高20mの巨木である。

更に150m程進むと右側に③吉野酒造がある。

※この吉野酒造の建物群は国登録有形文化財である。

吉野酒造を出て、右に進むと④植野坂の信号のある丁字路に出る。ここを直進し、天津小湊方面に進むと右側に⑤熊野神社がある。

※合戦場という里名があるところである。

更に⑥西原丁字路を天津方面に1.3km進むと比較的小さな「大椎」の案内板がある。そこを左折すると突き当たり大きな椎木が見えてくる。寂光寺の⑦県指定天然記念物の大椎である。もと来た道を引き返し、⑥西原丁字路を過ぎ、ヤマザキYショップきへどん商店先の小道を左折する。

※阿波忌部が房州から更にこの地で新天地を切り開いたとされる。

たんぼ道を進むと夷隅川にかかる⑧落合橋がある。橋の100m先を左折し、300m

進むと突き当たりが日蓮宗の⑨妙久寺である。更に右折し、1.2km進むと⑩赤羽根区事務所に出る。その十字路を左折し、人家の中の路地を進むと田圃道に出る。十字路から350m程先の木の生い茂る小道を左折すると⑪長谷寺がある。

※この一帯はかつて殿台と呼ばれていた。

引き返して、⑩赤羽根区事務所のある交差点を直進するとまた田圃道にでる。⑩の交差点から450m程進むと主要地方道天津小湊・夷隅線に出る。そこを左折し、100m進み右折すると出発地点の①上野集会所である。

コースの見所

① 慈眼寺の大カヤ 市指定天然記念物

慈眼寺境内のなだらかな坂を上るとまもなく正面に大きな木が見えてくる。市指定天然記念物の大カヤである。

※カヤ：イチイ科カヤ属の針葉樹、山地などに生える。葉は線形で堅く、先端はとがっている。種子は腸内の寄生虫駆除薬として効果がある、また、油は食用、頭髮油などに利用された。材は弾力性に富んでいるので、碁盤や将棋盤の材料として用いられる。

樹高20m、根回り7.5m、目通り幹囲り4.6m枝張り20mで樹齢は不詳である。同樹には各種のやどり木が植生し、中でも風蘭の着生が目につく。

このカヤは、勝浦市及び夷隅地域では、他に勝る巨木は記録されていない。県下で数少ないものである。

慈眼寺：日蓮宗で、創建は天正八年（1580年）である。



② 吉野酒造

吉野酒造の総業は天保年間（1830～1843年）。蔵のあるこの地を「腰越台」と言い、酒名の由来はこの腰越から命名し「腰古井」。蔵の環境は雄大な自然に囲まれた敷地に樹齢数百年の古木が生い茂っている。その古木の群れの中に横穴式洞窟があり、天然水（軟水）が湧出している。敷地の一角にはお酒の神様である松尾様を祀っている。

平成20年、吉野酒造店舗兼主屋や南酒蔵、煙突、松尾神社、門、石塀、北土蔵、旧馬屋などが国登録有形文化財に登録された。

敷地内には、**富安風生**の句碑「古風なる 洋間をもちて 館涼し」がある。

※富安風生：愛知県豊川市出身。ホトトギス派を代表する俳人。師は高浜虚子。東大卒業後は、官僚としての道を歩みながらも、俳句の道を志した。太平洋戦争中、鴨川に疎開し、以後鴨川へ避寒するようになり、この地で句集「村住」を発表。勝浦市には勝浦灯台入り口にも句碑「鶯や 礁へ落とす 萱の徑」がある。

③ 熊野神社

この地区には戦に関する里名が多い。

夷隅風土記

大森：乗込、戦ひ、勝負谷、駒返シ。

名木：駒寄。

上植野：木戸、駒形、沓掛、弓木、合戦場。

植野：陣場、弓折。

荒川：馬乗原、木戸脇。

中里：勝寄。・・・ などである。



上野地区には、ここ上植野と大森、赤羽根に熊野神社があり、上植野と大森の熊野神社の祭神は須佐男命である。（赤羽根は伊邪那美命、事解男命、速玉男命である。）

この熊野神社の近くには「合戦場」の里名が付いている。この地を軍馬が嘶き、剣が火花を散らしたことを連想し、歩いてみるのはいかがでしょうか。

④ 寂光寺の大椎 県指定天然記念物

シイノキ属スダジイで、目通り幹囲り7.3m、高さ24m、地上3mあたりにサルノコシカケがあり、2m位の高さから枝を出し、上方には大小の枝が群生して見事である。樹齢不詳。

伝承では、日蓮上人が小松原法難後錫杖をひいてこの地に来て、七日七夜をここで布教された時にも、この椎の木は境内で主木であった。

※小松原法難：文永元年（1264年）日蓮聖人が鏡忍房等と天津領主工藤吉隆に招かれての途中、地頭東条景信の率いる数百名の法敵に襲われた。吉隆、鏡忍房等は奮戦して落命したが、聖人は左手を折られ、頭に負傷しながらも、九死に一生を得たという法難である。



「日蓮彼の小松原における遭難後、岩高山（天津小湊と勝浦市の境にある山）に入り静養し、その後錫杖をひいてここへ来、留まること約七日、おおいに布教に努めたり、寺院の山号を千分山と称するは、慶安のころ日蓮宗の僧徒ここに合して、日蓮のために千分の供養を行いたるに由る。」（寂光寺由来）より

静かな寂光寺の境内に入ると、見上げるような椎の巨木が現れる。「日蓮在世の当時、ここに存し、寺院境内の主木たりしものなり」と言われている。小松原法難後の日蓮も、この巨木に癒されたのではなかったでしょうか。

⑤ 妙久寺

日蓮宗。興津・妙覚寺の末寺。本尊は釈迦如来。

文永元年(1264年)日蓮聖人は母の重病を聞いて故郷にもどり、法華經に祈願、母を蘇生させたといわれ、その不思議を耳にした興津城主佐久間重貞は、日蓮聖人を招いて邸内の釈迦堂で10日間にわたって法華經の教を聴聞し、日蓮聖人の信徒となり、出家して日円上人と号し、釈迦堂を聖人に寄進したといわれる。

聖人は、この釈迦堂を妙覚寺と名づけ、最初の道場とした。そこから妙覚寺は日蓮宗最初の寺院であるといわれている。

佐久間重貞の家臣佐正角衛門の母民女(たみじょ)は日蓮聖人の説法を聞くや深く感銘を受け法華經に帰依し、聖人より「妙久」の法号を賜り、この地に愛染院と称するお堂を建てて法を説かれた。これが当山の始まりである。

以降、ある時期荒廃していた。それを妙覚寺第21世日嶺上人(1580~1662年)が当地を復興、お堂を建立し、妙久法尼の徳を讃え「妙久寺」と号した。**妙久寺略縁起**より



⑥ 長谷寺

真言宗の長谷寺。創建は文永八年(1271年)。開山は慈覚大師とされる。

写真は参拝者が多かった観音堂と鐘楼堂である。

ここ赤羽根には殿台の地名があり、「神代本千葉系図」や「千学集抄」には、平忠常が上野次郎と号し、上総居住と記されている。この地(伊野台、今の中島または殿台「赤羽根」)は忠常以来「伊北庄」司常仲が頼朝に滅ぼされるまで、上総平家の居館という言い伝えがある。「**夷隅風土記**」

殿台という地名は、長谷寺前から共同墓地に至る東西の道から北側の区域をいう。表面的な観察からは館ないし城郭として特定できる場所は認められない。しかし、下記のような地名等があり今後の検証がまたれる。

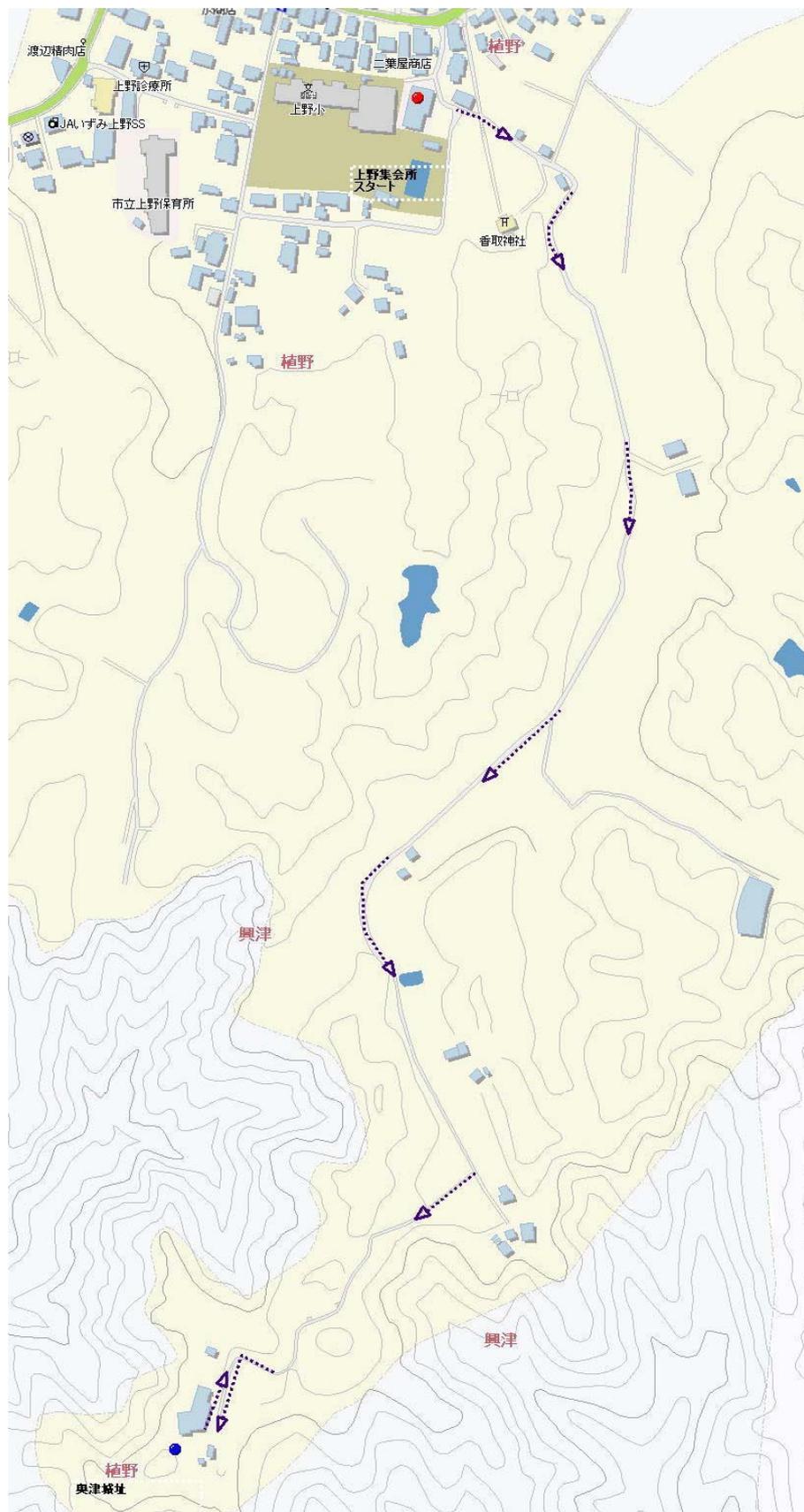
※この地には殿台・東閑小路・堀之内・長林坊・松ノ木堀・竹ヶ堀・梅ノ木堀・宮前・中ノ坪・北王前などの地名があり、大門先・馬場という屋号の家もある。

平安や鎌倉時代のことであろうか。この地は今も殿台という謎を残し存している。



スペシャルコース(奥津城址:往復2.4km)

経路図



① 興津城址

伝承では、天文二年（1533年）には真里谷武田氏の武田朝之が居城し、同十三年には勝浦正木氏の正木時忠の持城だったとされる。本城が文献史料に初見されるのは、戦国時代末期の天正八年（1580年）に勃発した正木憲時の乱の際で、小田喜正木氏の憲時方の有力な城郭として登場している。

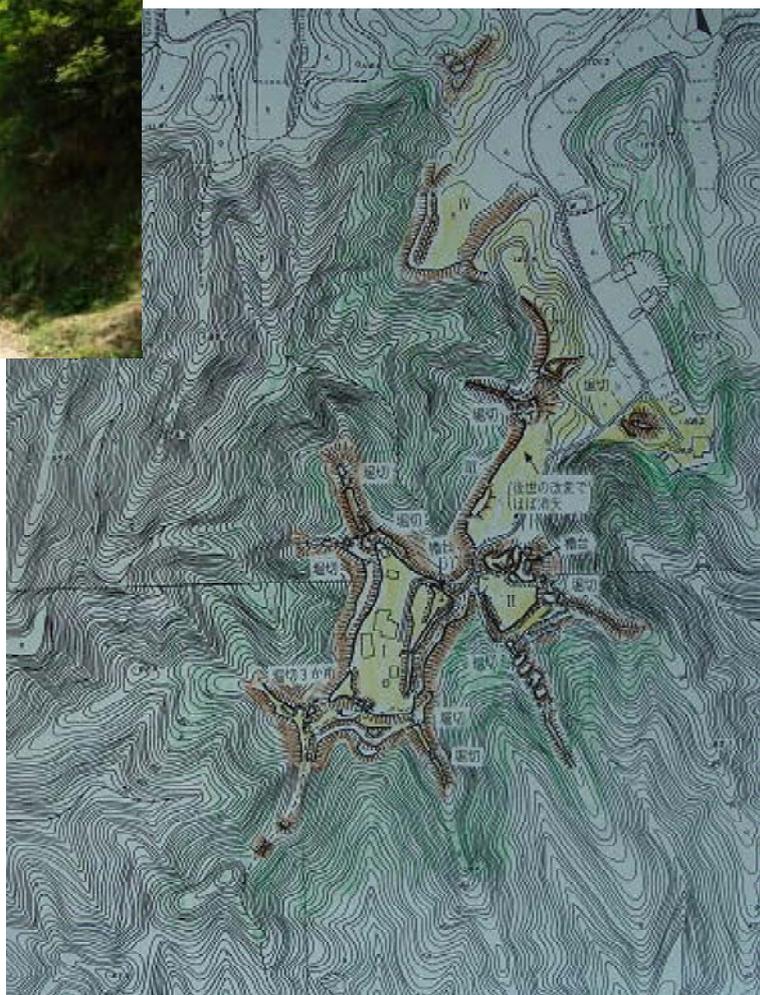
※正嘉二年（1258年）興津領主だった佐久間兵庫介重吉、同兵庫頭重貞の築城という説がある。（夷隅風土記）

この乱において本城は、里見義頼軍に攻められ、城下集落は壊滅的なダメージを受けたが、城だけは辛うじて残ったようで、「興津巢城計」（城本体だけが残ったの意）と表現されている。その後、天正十八年（1590年）に里見家が上総を没収されるまでは、里見方の勝浦正木氏の支城として継続したのではと考えられる。

内陸部の丘陵城郭でありながら、海岸部及び興津集落を意識した縄張りが確認できることから、海城としての機能を持ち得た城郭といえる。堀幅が広く、曲輪や土塁などの構造が技巧的であることから、戦国時代の後期、十六世紀の半ば以降にはすでに機能していたといえる。

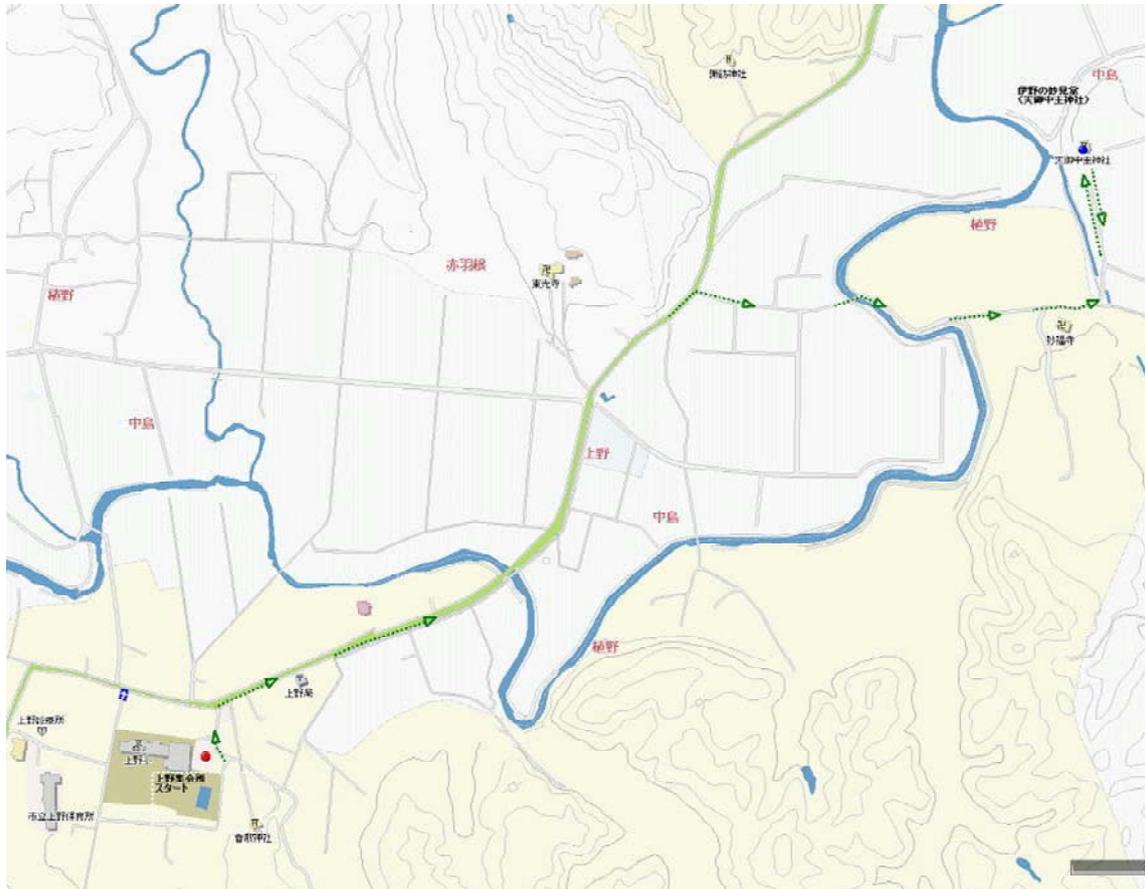


写真は、今の興津城址。
右上に櫓台があった。



スペシャルコース2(伊野の妙見堂:往復3.1km)

経路図



① 天御中主神社 (あめのみなかぬしじんじゃ)

祭神は天御中主命である。

本神社拝殿の「向拝虹梁・火炎親子竜」は四代目武志信明(俗称四代目波の伊八)の作といわれている。

※天御中主命：古事記では、天地開闢の際に高天原に最初に出現した神であるとしている。その後高御産巢日神、神産巢日神が現れ、すぐに姿を隠したとしている。生活に直接かかわる神でないため、長らく信仰の対象とされなかったが、中世以後、寺院や陰陽道などで祭られるようになった。この神を祭る神社には、妙見社系と水天宮系の二系統がある。

ここ中島は別名「伊野台」といい、殿台(赤羽根)と同様に、上総平家の居館があったと伝えられ、この伊野の妙見堂(天御中主神社)は、それら平氏の守護神であったという伝承がある。「夷隅風土記」

